

《その他》

## ライフセービング世界選手権大会に参加して

稲垣 裕美

### A report on the Lifesaving World Championships “RESCUE 2008”

Yuumi INAGAKI

キーワード：ライフセービング，世界選手権

Keywords: lifesaving, world championships

#### 1 ライフセービングと世界選手権

ライフセービングとは，一般的に，水辺の人命救助活動として広く理解されている。昨今，環境やライフスタイルの急激な変化から，海辺と人々とのつながりが希薄になり，海浜での安全で楽しい遊び方を知らない人が増え，自らの命を守れない人も増えてきた。そこで，ライフセーバーの行っているレスキュー活動を含めて，ライフセービングの果たすべき役割は大きい。ライフセーバーにとって，一次救命処置ができることは当然のこととし，事故を防止し，さらには人々の笑顔を守れるかどうか問われてきている。そのためには，救うことから守ることに意識をシフトし，Prevention（予防）こそが，最善のレスキューであることを再確認し，積極的なLifesavingを実践していかなばならないのである。しかし，一般的な理解は「溺れた者を救う」という救助活動に着眼点がおかれているのが現状である。そこで，ライフセービングのこれからの役割は，溺れない安心で安全な環境

をつくることにある。

さて，日本におけるライフセービングをみると，民間組織の1つである内閣府特定非営利活動法人日本ライフセービング協会（以下JLA）の取り組みが普及されている。JLAは，ライフセービングの国際組織である国際ライフセービング連盟（International Life Saving Federation：以下ILS）の日本代表機関として位置付けられており，「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」といった活動領域をキーワードとしてかけ，事故防止や生命の尊厳を普及していく社会貢献活動を行っている。JLAが展開しているライフセービング活動には，スポーツ，つまり，ライフセービング競技がある。ライフセービング競技では，「する」「見る」「支える」の3つから成り，選手として競技するライフセーバーから，審判員資格を取得しオフィシャルとして支えるライフセーバーまで，多くの方々の協力によって成り立っている。ライフセービング競技が目指しているものは，「生命（いのち）を救う」ことである。つまり，

競技会の開催を通して広くライフセービングを社会に普及し、また、競技会で培われた心体が迅速な救助を可能にしている。このように、勝敗の先にこそ、ゴールの先にこそ、ライフセービング競技会の真の意義があると言える。

ライフセービング世界選手権大会は、ILSが主催する国際競技会で、2年に1度開催されている（表1）。この世界選手権では、次の3つのカテゴリーの世界選手権がこの期間中に同じ会場で行われている。国別のナンバー1を決める「国—National teams—」、年齢別の世界チャンピオンを決める「マスターズ—Masters—」、クラブ別の世界チャンピオンを決める「クラブ—Interclubs—」である。

## 2 世界選手権（Rescue 2008）の概要

世界選手権（Rescue 2008）は、2008年7月16日(水)～8月2日(土)の18日間、ドイツで開催され、オーシャン競技はヴァルネミュンデ（写真1）、プール競技はベルリン（写真1）で行われた。参加国は36カ国で、我が国はもちろんのこと、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、フランス、イギリス、アメリカ、南アフリカ、インド、中国、香港、台湾、インドネシア等が参加していた。世界選手権期間中のスケジュールについては、表2の通りであった。

表1 世界選手権の開催地

世界選手権	開催年	開催国	開催都市
Rescue 1998	1998	ニュージーランド	オークランド
Rescue 2000	2000	オーストラリア	シドニー
Rescue 2002	2002	アメリカ	デイトナビーチ／オーランド
Rescue 2004	2004	イタリア	ピアレッジョ
Rescue 2006	2006	オーストラリア	ローン／ジロニング
Rescue 2008	2008	ドイツ	ヴァルネミュンデ／ベルリン

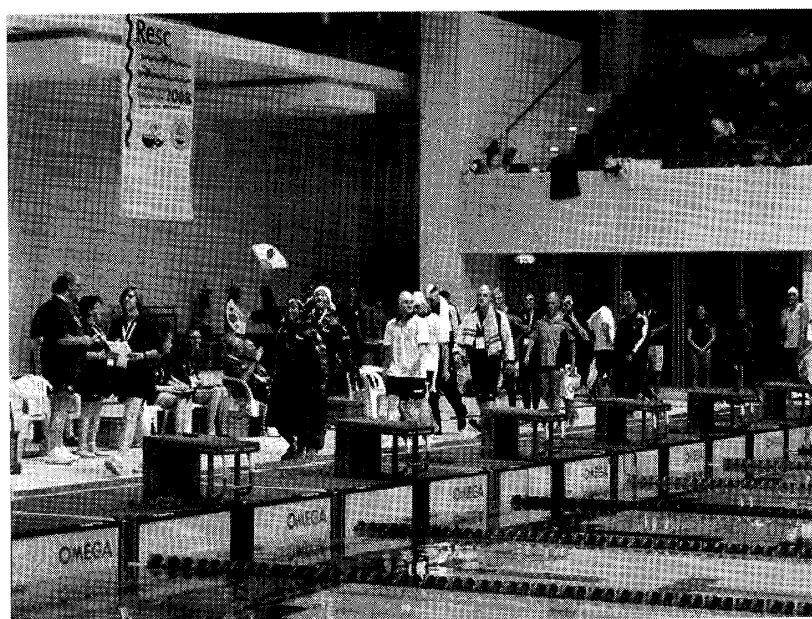


写真1 プール競技の会場（ベルリン）



写真2 オーシャン競技の会場（ヴァルネミュンデ）

表2 世界選手権期間中のスケジュール

Date	Berlin	Warnemuende
16.07.	ILS Board Meeting	
17.07.	ILS Board / Regional Boards	
18.07.	ILS Board / Regional Assemblies	
19.07.	ILS Gen. Assembly / ILS-Dinner	
20.07.	ILS Gen. Assembly until 13:00 Opening Ceremony, 19:00 National Teams Teammanager Briefing	Opening Ceremony, 19:00 Masters Briefing
21.07.	National Teams Reception Senate of B	Masters
22.07.	National Teams	Masters
23.07.	National Teams	Masters
24.07.	Traveling Day Masters Briefing	IRB Competition Reception of the Mayor of the Hanseatic City of Rostock, 19:00 National Teams Teammanager Briefing
25.07.	Masters	National Teams
26.07.	Masters	National Teams National Teams Closing Ceremony Opening Interclubs, 20:30 Interclubs Teammanager Briefing
27.07.	Masters Closing Ceremony Masters	Interclubs
28.07.		Interclubs
29.07.		Interclubs
30.07.	Traveling Day Interclubs Teammanager Briefing	
31.07.	Interclubs	
01.08.	Interclubs	
02.08.	Interclubs Closing Ceremony Interclubs	

### 3 国別対抗戦としての世界選手権

#### 3-1 概要

世界選手権 (Rescue 2008) の1つのカテゴリーとして、国—National teams—別での世界選手権がある。この世界選手権にJLAは日本選

手団を派遣した。日本選手団のスケジュールについては、表3の通りであった。チーム構成は、監督、男子選手6名以内、女子選手6名以内と決められており、その他にコーチ、通訳などのスタッフを帯同させることができた。

表3 日本選手団のスケジュール

月日	内容	詳細
7月17日	出国	
7月20日	ブリーフィング 開会式 会場：ベルリン・SSE (Schwimm und Sprunghalle Europapark)	
7月21日	プール競技 会場：ベルリン・SSE (Schwimm und Sprunghalle Europapark)	8:00 Warm-up begins 9:00 First event begins 200m Obstacles Men and Women Obstacle Relay Men and Women 50m Manikin Carry Men and Women 100m Manikin Tow with Fins Men and Women★ (21) 18:30 Anticipated end of events Day 1
7月22日	プール競技 会場：ベルリン・SSE (Schwimm und Sprunghalle Europapark)	8:00 Warm-up begins 9:00 First event begins 200m Super Lifesave Men and Women★ (32) 100m Manikin Carry with Fins Men and Women★ (35) Medley Relay Men and Women★ (11) Line Throw Men and Women★ (20) 19:00 Anticipated end of events Day 2
7月23日	プール競技 会場：ベルリン・SSE (Schwimm und Sprunghalle Europapark)	8:00 Warm-up 9:00 First event begins 100m Rescue Medley Men and Women 4×25m Manikin Relay Men and Women Lunch 14:40 Marshalling for SERC 15:00 Security closes for SERC 15:20 SERC begins★ (4) 19:00 Anticipated end of events Day 3
7月24日	移動 (ベルリン→ヴァルネミュンデ)	

月日	内容	詳細
7月25日	オーシャン競技 会場：ヴァルネミュンデビーチ	オーシャン競技 会場：ヴァルネミュンデビーチ 7:15 Team Manager meeting 7:30 First event begins Ski Race Men and Women★（準決勝敗退） Board Rescue Men and Women Oceanwoman/Oceanman Men and Women★ （準決勝敗退） Beach Sprint Men and Women Beach Flags Men and Women 17:00 Anticipated end of events Day 5 apart from Beach Flags Dinner break 19:30 Beach Flags semis and finals under floodlight Men and Women 22:00 Competition ends for Flags
7月26日	オーシャン競技 閉会式 会場：ヴァルネミュンデビーチ	7:15 Team Manager meeting 7:30 First event begins Board Race Men and Women Rescue Tube Rescue Men and Women Oceanwoman/ Oceanman Relay Men and Women★（7） Surf Race Men and Women Beach Relay Men and Women 17:30 Anciticpated end of events Day 6 21:30 Closing ceremony
7月27日	出国	
7月28日	日本着→解散	

★筆者の出場した種目、（順位）は筆者の競技結果

### 3-2 競技種目

ライフセービングにおける競技種目は、海浜やプールなどの水辺における水難救助をベースにつくられており、ライフセーバーの救助能力向上に役立てられている。種目の種類は、主にプール（写真3）で行われるものとオーシャン（写真4）で行われるものとがあり、さらにオーシャンで行われるものの中には、ビーチ（砂浜）とサーフ（海浜）の2つがある。今回の世界選手権ではオーシャンでは20種目、プー

ルでは21種目が行われた。主な競技種目について、以下に解説する。

#### オーシャン種目

##### サーフレース（Surf Race）

ビーチからスタートし、沖合にあるブイを周り、400m泳ぐ。

##### スキーレース（Ski Race）

サーフスキーと呼ばれるカヌーのような乗り物に乗り、オールを漕いで進み、沖合にあるブ

イを周る。距離は700m。スタート地点とゴールは波打ち際である。

#### ボードレース (Board Race)

サーフィンのロングボードのような乗り物に乗り、両腕を使って漕いで進み、沖合にあるブイを周る。距離は600m。スタート地点とゴールは砂浜である。

#### オーシャンマン／オーシャンウーマン (Oceanwoman/Oceanman)

ビーチからスタートし、沖合にあるブイを周る、スイム300m、ボード400m、サーフスキー500mとランをひとりで行う。

#### オーシャンマン／オーシャンウーマンリレー (Oceanwoman/Oceanman Relay)

オーシャンマン（オーシャンウーマン）レースと同じコースを、スイム、ボード、サーフスキー、ランに分かれて、4人のリレーとして行う。バトンはなく、ボデータッチで次の人と交代する。

#### チューブレスキュー (Tube Rescue)

チューブを使ったレスキュー技術で順位を競う競技。4人1チームで、溺者として1人が沖にあるブイに向かってスイムで泳ぐ。ブイに到着すると、もうひとりが救助者として、レスキューチューブとフィンを使って泳いで救助に向かい、溺者をチューブで巻き、泳いで引っ張りながら戻る。波打ち際には、残る2人が待機しており、水から溺者を引き上げ、砂浜のゴールラインまで運ぶ。

#### ボードレスキュー (Board Rescue)

ボードを使ったレスキュー技術で順位を競う競技。2人1チームで、溺者として1人が沖にあるブイに向かってスイムで泳ぐ。ブイに到着すると、もうひとりが救助者として、ボードに乗って両腕で漕いで救助に向かう。帰りは2人

乗りでボードを漕いで戻ってくる。

### ビーチ種目

#### ビーチスプリント (Beach Sprint)

90m砂浜を走る。

#### ビーチフラッグス (Beach Flags)

競技者は砂浜でうつ伏せになり、かかとを揃え両手をあごの下に置いて待機する。笛の合図で起き上がり、20m先のフラッグまで走り、手で取る。フラッグの数は全競技者より1～2本少なく、取り損ねた者から敗退となる。

#### ビーチリレー (Beach Relay)

ビーチスプリントと同じ90mのコースを4人のリレーとして行う。直線コースで、向かい合って行き違う時にバトンを渡す。

### プール競技

#### 障害物スイム (Obstacles)

深さ70cmのネットが50mプールの中に、2箇所、張られている。その下を潜ってぐり、自由形で200m泳ぐ。

#### 障害物リレー (Obstacles)

障害物スイムと同じコースを、50mずつ、4人のリレーとして行う。

#### スーパーライフセーバー (Super Lifesave)

自由形で75m泳ぎ、プールの底に沈んだマネキン人形(60kg)を引き上げて抱えながら25m泳ぎ、その後マネキンを手から放す。5m以内でフィンとレスキューチューブを付け50m泳ぎ、マネキンの腕の下にチューブを巻いて、引っ張りながら50m泳ぐ。総距離は200m。

#### マネキンキャリー (Mannequin Carry) :

自由形で25m泳ぎ、プールの底に沈んだマネキン人形(60kg)を引き上げ、残り25mマネキンを抱えて泳ぐ。総距離は50m。

### マネキンキャリーウィズフィン

(Mannequin Carry with Fin) :

フィンを付け自由形で50m泳ぐ。プールの底に沈んだマネキン人形 (60kg) を引き上げ、残り50mマネキンを抱えて泳ぐ。総距離は100m。

### マネキントウウィズフィン

(Mannequin Tow with Fin) :

フィンとチューブを付けて自由形で50m泳ぐ。マネキンの腕の下にチューブを巻いて、引っ張りながら50m泳ぐ。総距離は100m。

### マネキンリレー (Manikin Relay)

4人1チームで、25mずつ泳ぎながらマネキンを運び、4人のリレーとして行う。総距離は100m。

### レスキューメドレー

自由形で50mを泳いだあと、男子20m・女子15mの潜水で底にあるマネキンを引き上げる。マネキンを抱えて男子30m・女子35m泳ぐ。

### メドレーリレー (Medley Relay)

4人1チームで、第1泳者が自由形で50m泳ぎ、第2泳者はフィンを付けて50m泳ぐ。第3

泳者はチューブを肩にかけて50m泳ぎ、第4泳者はフィンを付けて第3泳者からチューブをバトンとしてもらい、そのチューブに第3泳者が両手でつかまり、第4泳者が50m泳ぐ。総距離は200m。

### ラインスロー (Line Throw)

プールサイドから12メートル先にいる溺者にスローライン (ロープ) を投げて、45秒以内に救助する。何度投げてもしやが、45秒以内に救助できなければ失格となる。

### SERC (シミュレーション・エマージェンシー・レスキュー競技)

4人で1チームを構成し、競技前にロックアップエリア (Lock-up area) と呼ばれる場所に隔離されプールで何が起きているのかは見えず聞こえない。プールには泳力がある者、泳力がない者、意識がある者、意識がない者といった様々な溺者、負傷者、病気になった者などを演じる人間やマネキンが配置される。競技者はスタートの合図でプールに誘導され、あらかじめ備えられた器材を使って、それぞれの状

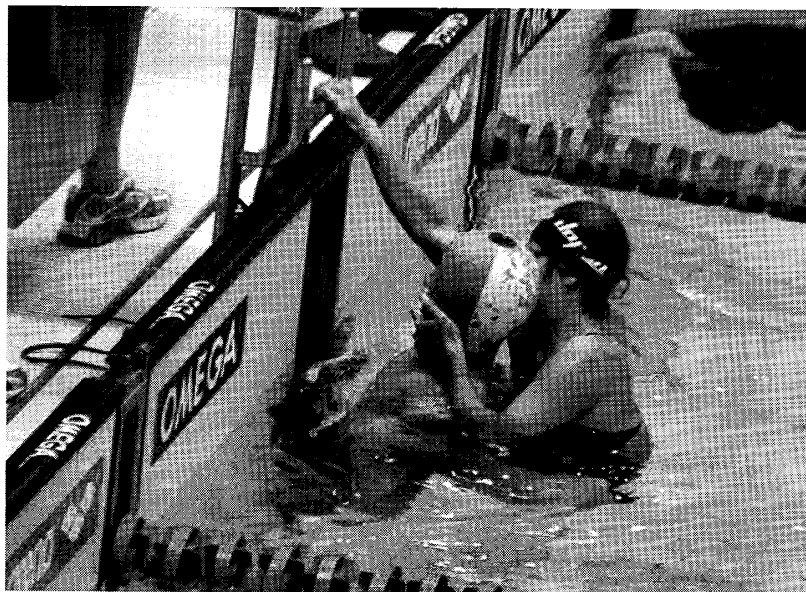


写真3 プール種目 (マネキンを救助しながらのスタート)

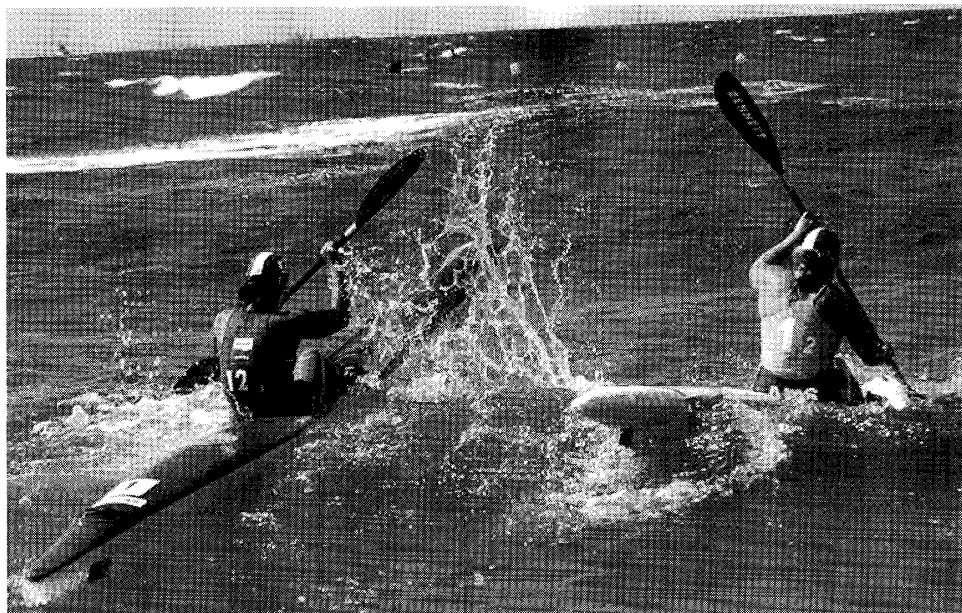


写真4 オーシャン種目（スキーレースのスタート）

況に応じた救助や応急手当のシミュレーションを行う。競技時間は2分。正確さと速さが審査される。

### 3-2 日本チーム

日本チームは、団長1名、監督1名、コーチ2名、通訳1名、男子選手6名（男子キャプテン1名を含む）、女子選手6名（女子キャプテン1名を含む）、総勢17名から構成されていた。筆者も日本代表選手として日本チームに加わった。なお、日本選手団の組織構成は図1、写真5の通りであった。

### 3-3 競技結果

日本チームは21つのプール種目、20つのビーチ・オーシャン種目のすべてに出場した。プール種目は、ニュージーランド、イタリア、ドイツの選手が優れた泳力で、各種目において上位を独占したが、日本チームの力は及ばず、いずれの種目においても3位入賞を果たすことができなかった。しかし、SERC（シミュレーショ

ン・エマージェンシー・レスキュー競技）において、日本チームは過去最高の結果となる4位入賞を果たした。3位とは僅差で、3位により近い4位であった。この種目は、実際の事故に応じた救助や応急手当のシミュレーションを行う採点競技で、最も、実際のレスキューに近い

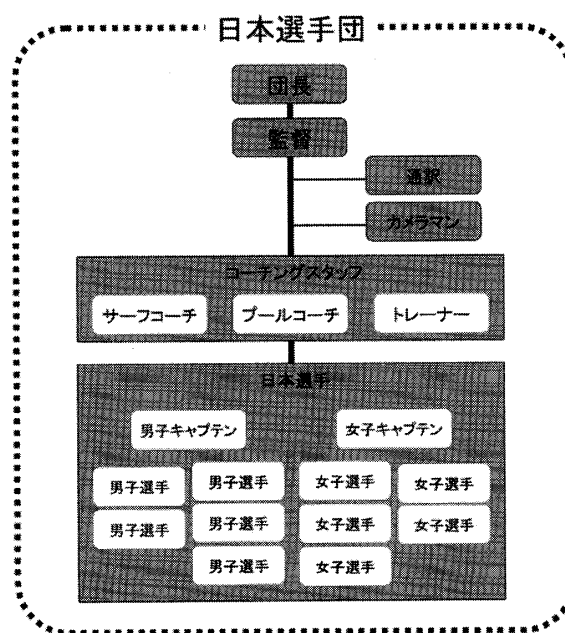


図1 日本選手団の組織構成





写真5 日本選手団

種目と言われている。そのため、この種目での4位入賞は、我が国の救助レベルの高さが世界レベルであったことを証明する結果であったと言っても過言でない。また、ビーチやオーシャン種目において、日本チームは大健闘をみせた。特に、ビーチフラッグスでは、女子が優勝と3位、男子が2位と計3名が入賞し、日本選手が表彰台を独占していた(写真6)。その他、ボードレースで男女共に6位入賞を果たした。

日本チームとしての結果は、プール競技16位、オーシャン競技7位、総合11位であった。

#### 4 おわりに

大会期間中、数多くのスタッフを目にした。大会会場どこにいても多くのボランティアスタッフがいた。スムーズな運営の裏にはボランティアの存在が必要不可欠なのであろう。一選手として感謝せずにはいられなかった。

個人として、オーシャンウーマンリレー女子

のレースが印象に残っている。リレーのスキーレグに出場させて頂き、歯を食い縛り渾身のパドリングができたこと。人のために、いのちのために、力の限りだったと思えるレースができたこと、さらにリレーに出場する機会を監督から頂いたこと、恵まれていることに感謝せずにいられなかった。強くて優しい「レスキューアスリート」に私はなれたのだろうか。

ライフセービング競技から多くのことを学んだ。「多くの友と出会わせてくれた。」「人のために尽くすことのすばらしさを教えてくれた。」「心と体が鍛えられ、工夫することの大切さを知った。」「夢中になるものをくれた。」「いろんな世界に連れ出してくれた。」そして、自分を支えてくれた多くの仲間がいてくれたからこそ、職場の理解があったからこそ、世界選手権大会に出場できたのである。ここに深く感謝したい。